

越後ふとん

(胎内)

胎内市坪穴の寝具メーカー越後ふとんは、1868(明治元)年に創業し、150年以上の歴史を誇る。睡眠への関心が高まる近年は新商品の枕が話題を集める。長年培われてきた技術力で伝統を守りつつ、大手通販企業との共同開発など新たな取り組みにも挑み始めた。



高い技術で新たな挑戦

「睡眠ブーム」も好機に

同社の起源は新発田市の衣類商だ。2017年に創業家由来する「イトウ」から「ネクスト・キャピタル・パートナーズ」(東京)が事業継承し、越後ふとんと社名を改めた。その後、元々工場があった胎内市の現在の場所に本社や物流機能に移した。

大手メーカーと異なり、国内製造の品であることが強みだ。執行役員で、営業部のクリエイティブディレクター佐藤裕子さんは「熟練の職人による手作業の工程がさまざまなどころにある」と説明する。全てが手作業の和布団も製造する。

売り上げの50%を占める羽毛布団の製造でも、羽毛を詰める作業に職人の感覚が生きる。夏用の薄い布団の場合、布地に羽毛を入れた後にミシンをかける。羽毛が偏らないように縫わなければならず、熟練の職人にしかできないという。

主な取引先は日本生活協同組合連合会、通販会社、旅館やホテルだ。近年は、相手先ブランドによる生産(OEM)にも力を入れる。

昨年秋には通販雑誌「通販生活」を発行するカタログハウス(東京)と共同開発した商品の販売を開始した。薄手と厚手の2枚合わせの羽毛掛け布団で、スナップボタンで取り外しできる。絡み合うようにくっついて熱をのがさない羽毛にもこだわった。

商品開発担当として佐藤さん

会社データ

創業年	1868年
資本金	1億円
売上高	約14億円 (2022年度)
事業内容	寝具と寝装品の製造、販売
従業員数	62人(派遣社員を除く)



睡眠中の呼吸を意識した「脱力まくら」

も羽毛の産地である中国・吉林省まで視察に向かい、「品質に厳しい大手通販会社に認められたことは自信になった」と話し、息の長い取り組みにしていきたい考えだ。

布団以外では、22年に売り出した「脱力まくら」が好調だ。東京のスポーツジムと共同で、2年ほどかけて商品化。眠りながら深い呼吸ができるように自然に胸を開く体勢になるよう設計し、独特の形になったという。最初はクラウドファンディングで売り始めたところ反響が大きく、現在は定番商品になっている。佐藤さんは「睡眠にこだわる人が増えた時期にタイミングよく売り出すことができた」と手応えを語る。

新たな挑戦の一方で、地元で密着した取り組みも継続する。創業の地・新発田市での直売会を年に4、5回のペースで開く。割安で販売するため人気で、3月の会にも多くの人が訪れた。次回は7月ごろに開催する予定だ。

布団は頻繁に買い替えるものではない上、量販店では安く購入できる。佐藤さんは「脱力まくらなどの新商品から越後ふとんを知ってもらいたい。自分たちにはできないものを作り続けたい」と力を込めた。



越後ふとんの羽毛布団製造現場。長年勤める職人が素早く丁寧に作業を進める＝胎内市坪穴

村、
策金
承継
た。林
化や
増が理
継者
よつ
く組
の覚
初め
日本
業の
グす
回の
上信
紹介
うに
村。

お
道

土日
いる
の「阿
り切れ
町の道
どころ
ハン
業の
の牡牛
1対1
をせい
エター
り、フ
が清涼